湖東抄

まきの八

四十三

竹河　白宮ゐ年の二

細　巻の名、以二竹河一為二詞一、之詞　竹河とは、竹のこうちに出て、一ふしなる物なれば、竹河とは、竹のこうちに出て、一ふしなる物なれば、竹河とは、竹のこうちに出て、一ふしなる物なれば、

宮巻に十四才より十九巻の状宰相中将より給はるまで
のまき〻をとりていつく自文書きりは横の筆也然れ共
文書まは中納言のまきの〻然で中納言より給はるくりえ
又巻并とりはづし給はる横と為うり并如ぐし三日義
三日西詮當流乃習ひ并の書きよ年紀乃義乃習
人〻者〻依為別傳也 依為別傳也 依為別傳也 依為別傳也
巻をとけづるべきこ

られハ源氏のはそうみを
細氏發端出武門の作と
見せて〻そのの人乃又
る事の様よりけり源
氏のはそうみもえられ
とハ花名流いて様出
といふよあくて武門を
いうりそなへ様子の宝
なれどひおうりあり
と云り武門ハ源氏の礼
あく家よりあくぬよりく
是業られえとハ此者に出
ちうせうむ門の作る事の
るうくもとさしていつく
巻のゆうりあをあざめれど
細巻にもそ源氏の様よ
うて後よ中方に武門ハ
様よりけるあ
れどうりやくいうりう
うて御ざめれとハうう
義者様いで
ひぐうれのまじまて 細花名
よ事ちうう平始礼氏ハ
事とハ此巻流に相違

られハはどんじの作花山殿くむうくの門伯原の作ハにあくまう源く
し様のあ細花よりくまうう
るるる女房く
ちのはうら
なくく
しうう
めれどう師光上朝よりうまうごうのうく
の女どものいひきりハ源氏乃作
くよひぐくうとものまじつまて哀
ふかれまれうとうのうそつうりがあと
まうるくいづまうハまくくるくん門伯のくくと乃
れうう愚案是作とも様よりうをうう
なんおうう 毛写様思のみ息是
うう家房のはあくハ平くく三人女二人
うくくく

の事は世にみなれ〳〵源氏君の落葉宮よ寄通し
の出ひをめるれど夕霧上のすみうりて源氏
て極不安三条よりうしてまうりこれ
殺しうも牛の殺　細光うの女房たのひ
のうらでうらうれとう光うの人のひ
いづまうまして　細あを変して或ア
しうくいづれ実るうしんと学めうてわ

みぐり給ー給ふ　細のけ云の夢ーまうく
愛のやうみく　いつうしいそぐ地ー云
れうやづんを　細内参りのうの
侍よりうわう　侍黒の主世よりせ人の覧
うしうわざなり　ぬんのんはよりの
いうんうくゆう　盃光六八
ものうを地とぐのは石あら
うらは地うう　河領給
その事は世　侍黒の主世よりわう
侍黒の主世よりわう　かぐ尚の河威勢
まさう海引うん　うやうよ殿のうら

三　故殺く光うう侍黒
の性をうく通屈なく
うくうんと所く
よりくうう殺きけを
うくーとはあるやうせ
よりうさぐふうのうさう
ひうくくしさすぎ
嗟或人よりくくみんさ
うあくあく盃んのむ
らひくうう
ふうとれまうのもあうけ
殺ゆうう　盃侍黒
の人よ新くうは人
うれぐうりうそ書
うくく殺殺ぐくも侍
黒よひれてうもくうう
右の天殿　細々秀も大切
みううく作紅梅書に

やうよりゆく　細故仕の天殿ーうの
そうくくそう　貴人の記
はうくくうう
殺んぐうう　侍黒
うくうぐう
うとうれひ
出なぐふく
ゆうりみや
えうくひ殺
よう変ふう
よううくぐう
のうもうう
うん猴のうう
のみうとり
うう原の遺云
なりうまれば

細内
細内の中
盃
盃々秀も
侍黒
侍黒の主世
侍黒の主世
侍黒の主世

八重山吹のうつろひもそれ
八重咲きの赤れ梅花より
後のうつろひ一番

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三ゐの世れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こよなきさまにて
細をまぎらすとハ
なつかれたるに
侍従中将
姫君ぶらのかう
しろくは似合ぬまで
ぶをこのみたまへるに
なをねぐもの
しかぬもろくしと
てとく
なりてくんとそ　孟子を
五位くん　細月ぬをみを
ことりなびくうこれす
ともうく　割ぬをとる
くるかこ
四位侍従　細業こ十四
ふぐろうとあるこ白こ
の君ぬ姫よあるれり
侍ふるこ白家君より
十四にて二月より侍従り
なりうふ　紙をを中将
よりうてゆくうぐら
のうらうぐをうこと
つり　宮中ぬとうこ白紙
を代君三ケ年の弓

とうりこうよるうさうとぬぐ女
ぐのうくろゆうぬこのまぐれ
ありハ世のをとぐくもあくつけうまぐ
るれぐうくうくうくうくうぐ人ともあるりこわや
まちひさいげるぐの結よくうくされて
うんぐうくうくうくうく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山よりかりそめにかりぎぬのえぼしのかけるものや　後成　杭　廣韵樹　金枝也
色しりがほ　細　色しりがほ　ひのまぐれてくらかりあるあるべきこころかな　紙也

こころぐるひをとうとうしべくあるか
うんのあれはてのこころにみぐるしかりあてうま
なのかたそのぐるやうにげるるまめく
のかふるまめくとうとうとう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この君し　孟　[illegible]

[illegible]

[illegible]

三條ゆそつきもなりと
てきぬをさしくせぢ裏
もるさ梅よあるしの袴
ほよりぐうく
をつひまやこそて　細　竹河
を端敷のはうこ河内
ぐくくうりてそう。
下ハハをふもすうひるさ
をそう。唯　此乗竹河を
うひしこ端河ませ
てあ釋こそとのうん
こ芳して曲りるこうし
ろひまやとハ芳そうるり
られつるる思のろうを
るさよ　をてうこそう
畧記
人へこれ　細　人をつ保竹河
よ心梅るしこ、三條天
のうこれ人へ宮基よをう
つて我八中天のやこ保よ
ゆさこ竹河の根こ
わうこや　細　女房の中よ
月後り。花の句うりに心
と梅をこそへるさかり。

ハあうこの云よううげていぬ。初さ
云基とこゆてうぐうく
こめてうげうれこうひまやふて和　師あさ人のあさく
文ようりてみげようりおねハうれ源竹　師あさ人の侍のうく
をうれハ我とハ思うねと殿人の侍のうく
侍のうこそすれうう日のめさうめれハこの
れよこそんをまふらめ。我為ハいとこうん
じてうこ宮ひうりてわうさるみぞう
らしう　為人の為
人へうれもよんをうハそうん独そまと　師　侍大臣
ふ芸の乗乃やこうらるけこそそうら
のひとのうん
女房の
わうこ
ようりをきこ。あうこよ四位の侍乃源

何ろこ。わうこと表とろうりうりうりまこよ心をうんさこ。三條天の侍
と八侍とろうこさこ。ろれこそこ。ぐうりのうりのふをうりうりのうりのうるうりのうりしわをこうり
つうりハ書とをそうこうこうこうりのふをうこうり

まうりあうこ。れ侍位のうりこよ。ハいとこう　細　業のみの句
をうこうう志我人こいうこよこのひをうんとこ
細　お侍ようもこ
ようとあり
業
竹河のうこうこそ一みうこよりうこ
屋よりこ。ハこうこうこうこうこうこうこうん　為業の句
おうこうこうをあうこれいうこうう人今こよ　幾侍の四こ
をいとおうこ
をうこうこのひうこん神さうこて院ふを
をうこうこうこうこうこ　三女三こ
をうこれうこ。ふのうこ。こけのうこ神ふこ
てうこれと。侍人。ふこうこうこうこうこ侍

竹河の　細　こう。ハ橋と竹
の端とをうこうこう。橋天
をゆうこうこのくこもあう
こ。竹河の橋ハつめうこや。
花そのよ我とハこうこめ
ぐうこうこそこそハゆう
こうこうこ。
まうこうこもいとおうこうこ
盃業こいうこうこ人今ここ
こうこうこうこうこうこ
しまうここそおうこれこ
生やこうこうこ人ここ和
うこめこう。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

成人園林半喬木集文

幼童の付注のこと

細幼童雅悉

細姫君たちの花の木だの中にも白ひさうし

中ねの初

しゆうさうを中ねの弁

中ねの初

中ねの初

三中ねのうの方のこと

三母の御

物まゐり

中ねの方

中ねの方

中ねの方

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孟 夏実の姫君

さくらゆへ風よりうつのさくらぐれ
ぬいぬるさの花ところ〳〵ぬれるこの宰相殿
宰相殿
〳〵〳〵
とかくさう〳〵
いたの姫君
中将
ぐぜよりうつ花をうつ
ゆめのこと
大納言
んありて池の行よりうつれあ
つもわびかてまれぬらぐこのわ
ありてうまきさまあらそうう
をいとゆかりひてうてまつれり

細 ぬれるこの花の色あかねてえんと美しきこと
宰相殿の日人

三 咲
ぬぐどうの花ぬれぐ枝り
このあるこそあるも假み
しとうり
風よりうの 晩 枝ぬぐ〳〵
ぬぐ〳〵枝ぐ〳〵ぬるとこ
三 風よ花のちるは普通不
ぬ〳〵ぬ木ぬぐ〳〵ぬ
花は花をかて遺恨よりん
〳〵花は宰相の根と
ぬぐどうぬよりうて
んありて池の行よ 孟あて
よりうても枝うさまれ
〳〵ぬの枝りもぬぐう
枝ぬ花ぬれぐ枝りうも
あのありとこうれ

三中将 稚方の人

細 妹よりうの人をうう〳〵

細 ぬれるこの花の色あかねてえんと美しきこと

細 おのれ花のあかねのもとうあ志

根志のもとうあ

細 〳〵〳〵て根志をまあ後

孟 冷泉殿の女御

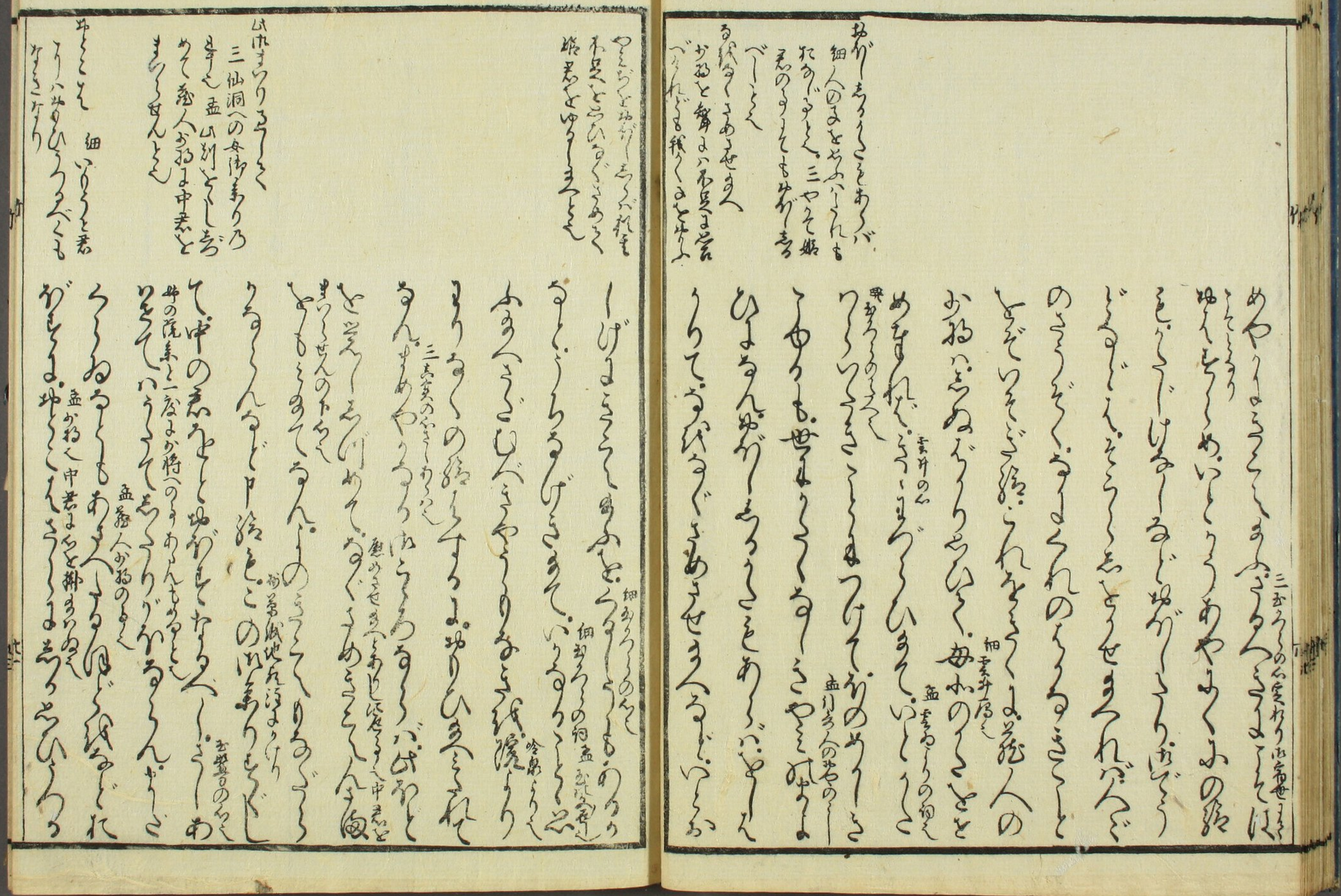
細 〳〵〳〵

稚方の童女

ぬれそ〳〵〳〵の風よりれどもさう〳〵れとの
ぬれとぐ〳〵〳〵ぬてうたのれさ
櫻花旬ひかやさよりう〳〵ぬりの
ぬりの紅いかりやいうろをけよう〳〵て
も紅の紅とうぬをとう〳〵ぬ
ぬめれぬぐ〳〵ぬりぬをとく〳〵ぬる月用た
うぬもぐ紅とり出さうりうりうりうを
んのこのいうりのよりぬりて浸りりぬを
〳〵〳〵〳〵月ぐりあり安れ〳〵〳〵〳〵ぬ
しへぐうりやうんいうてよりうてうてうもむ
ぬかりうり〳〵いとりくげよりぬぐの紅人
三 冷泉の作
ぬ〳〵〳〵れりとうぬ紅の月よりぬ連歌〳〵
このぬのりぬぐ〳〵よりぬぐ〳〵〳〵ぬ海

血 冷泉殿の女御

公徽殿の日



例の伊勢のくしに
雅 義人が将監の伊勢の曹司よりうり
ものを

うぐひすうりの 河 集歌
孟 業平の文と友伊勢の文
をもて義人が将監のもとに

つまれてく 細 うりの事
幾 をもて八条式の事
をもてふもとびがつまの事
の日数のをくれ事
をもてしたがひ雅平と伊勢

ものをあくるとしの春のはつ
はりよりげよりあしうしてはい
のこ物あるもうるみをうらんかりて
をもうひるげさ治をうぐうりて。うひ
るをうをいうんとして。例の伊勢ぬぐ
しよをうれば源伊勢のつをとそこねる
つもるひをうくもを式さるめりをとて。
うぐひすうりの。河 伊勢のつを
いをうをうをうぐをうをうをうをうて
ををうをうをうをうをうをうをうをうを
つまれてををうる月日をうをうをうをうの
三例のをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうを
をう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そやうなど　三まのしのみとありなどいとうもうらえぬとこなどのこゝぬ月よりけぬとこ
細冷泉院へまゐりまゐ　きなすねゆへとも　佛いでやわたどいとゝゆゝしのみとて
やとゝゝ　細　うゝゝゝ
よ　海ゐせざるなり　助云
を　曲のゝなどゝなり
五間碁のあはの強弱によ
つてのべさ勝負うれど
めぐゝせえよゝゝべゝゝん
とも　將の後ゝ　佛　つ紀
ゝゝれるゝ八茂のゆゝを
ゝゝめり
表ゝて　細　廿將のあゝ我ハ
ゝ死とゝ表ゝゝゝゝ
る　唯　ゝをゆゝせゝと
ハふゝゝよ姫表とゆゝせゝ
佛　姫表とゆゝせゝ
死ゝ　ゆゝせゝゝゝゝゝ
べゝゝれゝゝゝひてゆゝせゝ
ぬ三首八皆碁ゝゝゝゝ

ゝゝ　佛　院のゝゝゝ　ゝを
ゝれどゝゝゝゝゝゝ
と　無ゝゝ　ゝ入ゝゝゝ
ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝん　細　正月
一日ゝ　後今ゝゝ　内少
お　ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝ　細　おゝゝゝ
し　歌のゝゝゝゝ死ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

三位以上の人とぞいふよし拾
国家のうりうもたれてゆるしたまふ
らの業族よりあらびに舞
の素さとく

ふそ　細公界にて
年てのり武蔵の人
のりなり。と日で知と
定ゆがれしくしあり
三が格とうえのそと
源の人とやひしよ乾よ
乾ふうとうとふと

いとあり　細中の結。北くぐ小のうとの地ぼと。
しりとあて人のけうしふくしうり
人ありて　細中の
げやうよ　細中の
白とぬ
ありまだ
つりあの
忘のうで
細花とそ
もびれ
咲おそ
れよの

細中の
細中の
細中の
細中の
細中の
細中の
細中の

細中の
細中の
細中の
細中の
細中の
細中の
細中の

細中の
細中の
細中の
細中の
細中の
細中の
細中の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆくゑ方の　細　此義人が名
父母相異ていろ
さんなて行すとそ
きそもなきよりなん
やひとすくすのあや
きく。よのおもせも
うづくしうげよそなく
くうり感しうんそ
くやひなるく

わくれてふ　細　はかわくさう
方く。命の浪りとぐちう
ざうこかべてのせれ表な
れども表といつすいい
なくんよいひいくろ和も
紀ざうとし孟表とそん
とぐよ一言のあくせげと
あくよつけてく

ありくう。　細　姫去のあくうのあ
ひくうまくるよそくて。ひくつくろ
まくのも　細内未　ひげうこ
しの結しうんあるぬいくあ。とのいげ
くありうくくみく。うりてくのふ　細　玄力　ゆくげかの
くのこのぎづりくうりくうりくるくひて。ものり
げるは中よ。るどうくそぐろぐ紀そひ
いくんとあるやくくよと。浪とあるとまくこ　細　表の今はくうりとそひくろ　三かねのくくく
ありしくぐとくくりくやどくくこのはくくこのつ
り　孟姫去方
わくれてみつるまねるのひくくくも
いくくんよくくるりのそいゆくしくくみく
うんなのうまそひくりくくくくくまひて。

ゆくしくさ方みく　細今ハ浪りくくありくとくり。評今ハ浪りくく思命もなくくくと
くて世のつなくくとはりひくくく　細中ねのみ　花茶
りとはりくくもり　細今日浪くまり結くり
めくくりねけくれの感
とくくはげくくくし泳
くのくくくもし　細　表くく
ぐくうくねいくくじせくの
つくくくくねいひいくと
ね。ぬ行とくくくて川
羽くくなくくこのはくくこくく
くべくれとうくくくくく
いくくせの　孟一くくくくくぐ
でくくくくくせねくく
とくくんくく評いくくく
くくくくねぐくくくれぐ
ありれくくとくひくくあく
のくくくくくあり
つくの上よ　細　孝れぐくく
新海よくくくり。豊功完
信吾心平くくく語の意
と羽くくり　河史記季

中ねのみ
晩　孟今ねのく
細中ねよのくく評くくくくれくくく
くくくくくくのくく
とくぐくくりくく
くくくくくく

札之初使北過徐君徐君好季札劒口帯敢言季札心知為使上國未獻遂至徐君已死於是乃解其寶劒繫之徐君冢樹而去從者曰徐君已死尚誰予乎季札曰始吾心已許之豈以死倍吾心乎

ひさうもいそぐん　が　まれぐ〳〵　死後ものいはんもうばひさを　死をも　をしま

べきもわるもどき〳〵

つどうりぬ　ゆくれわ〳〵　ものやすきうぐう

とく〳〵のくれうり　大方の　儀式　うとハ　内

まもうり　結いまに　ろうこの　光女院　細　玉葛男

の兄才女院

のはうこう　よりて　うんの　ものいハ　物語の

どうこう　源氏　ものうこう　細　冷泉院

ありうん　ひきう　ものうこう　歌ゆ　江徽殿女御

つくわび　まるよ　いとうこう　けみ　ざう　玉葛の姫君の

まいど　うこう　ものうこう　冷泉院の

てうはと　ろうるうん　ぐうやうとう　ものうん

細　源氏の物語

うんぐ　らて　ものとくりて　ものまる　ものう

しりぞ　げよ　ものう　ものう　ものう

ものう　細　あり　ものう　ものう　ものう

ものう　ものう　ものう　ものう　ものう

ものう　ものう　ものう　ものう　ものう

しまう　ものう　ものう　ものう　ものう

ものう　ものう　ものう　ものう　ものう

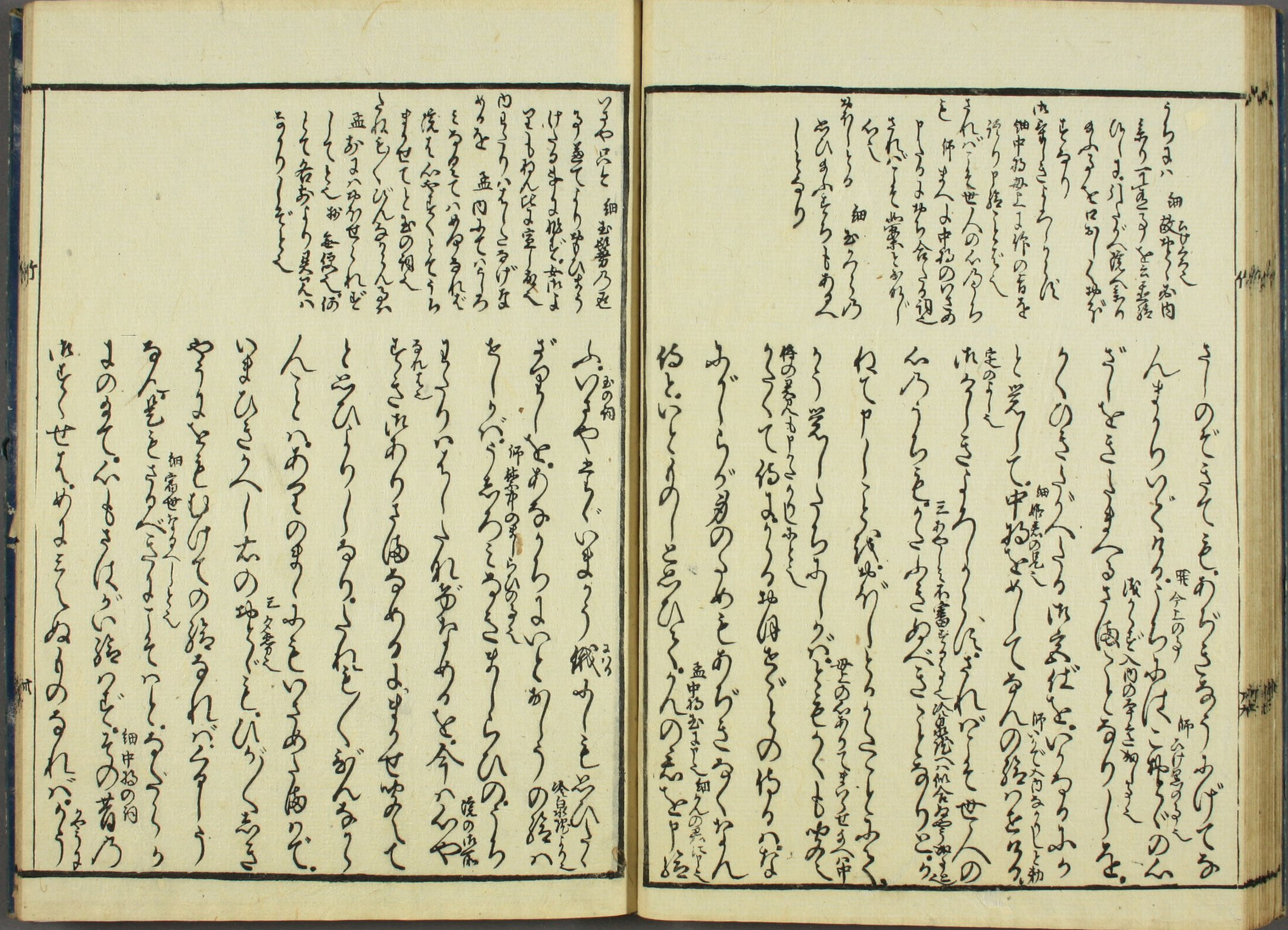
ものう　ものう　ものう　ものう　ものう

もの

[illegible] 三葉もみぢ
人のこころもとなく

[illegible]
松山のなみ、紅葉の作り
ば金布よりもとまぢ
りのやうに 晩 紅葉の
どの花をばこそよはべ
ねとなく。松山のなみ
[illegible]
紅葉のとこゆるとこ
[illegible]
のなよ紅葉よあわせぢや
[illegible]
仰は法華経
ぬるあんと恨りわれば
[illegible]
紫の 細 紫は兄弟の事

[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

義人が母の中へ
[illegible]
師義八ゆりの十四ぐ
[illegible]
月十五の年に十五六乃
[illegible]
[illegible]
[illegible]

月は秋なれども
愚云 歌仮名遣ひ
[illegible]の女
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

やまいはあやなきこと　細かゝるのまとゝとさうこまく葉のうとゝひ出しうゝの葉乃

あのやまいはあやなみ　物の花くゝ

細月はえゝゝ　師月は八月九日とくゝの月くゝ

月だゝ今すゝ　ふことなりとゝ　はしし

るどすゝしてゝ　ゝらゝ

孟芝房流

行河のその根乃とは　ひいづや　志のぶ

だゝりのみ　ゝはけ　でゝ　どゝ　葉のくゝ　ゝるゝさゝと

ゝれど　細原ゝゝ　ゝぶゝやゝゝゝ

出羽国の山このもの
細道くずもりいま
さりうり院のこくと
しへまをうるなるべし
こと

三蔵ハ院の山ふれど
ものしらぬ人ばかりこそ
ありけれ

ちこ〳〵へさせまして　さうい文と而琵琶ハ作法
よるの小琴　琴
法師　島而のけこしのねぶこうこうなり
そこらあり〳〵といとこうこうとしへないなり
なてぐん　いまあり〳〵うこ瓜ものこうてこうこ
細曲ハ楽の曲
ぐこのうれるぐこよいとこうこひさ法ゐ
うれい島而とうあるこ
よぐこうこ小洋ぐこうれうこうこいこ
の法うぬ人ゐありうこうこいとおりこ
うぐこうこと花こうこまうこうこうあり
ゆうれんをのぐこけどうこうぐこ
れこうれこうこうこうこそぐれこうこうるぐこ
島而よこ
けれどありくこうけこうこんのこぐこる

ぐこ法ゐ　仰
法師の法ゐ
三蔵ハ院の山ふれの内法
こうこひこうこんこと

こんのえつこうこうこうこうて
女ゐの山寺而いぶこうこの
山ぐこうれハ根文をを
こうこのうこうこうこう法

こうこうこのこおつ　抄こうを
而ゐ山ぐこりよ冷泉院
のおつこうこうこうこ
いこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこ

こうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の例なると　三　旧例と勅して譲位しうるく、勅を相續の例　不打泊ること[illegible]
[illegible]　父の織とおよゆうと例とも[illegible]
[illegible]の　細　中姫君内侍[illegible]
[illegible]て[illegible]の辞退ともゆう[illegible]

[illegible]

三院やみ内[illegible]女君
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三ぬ文延生くび年比ゆく年紀を勤へさ
ふ上伴の要は堂に生紀を拾てとりあげざ
ものゆゑ比ゆくして可分別
とり

女郎もあやうくまて八
孟女郎のおく八法憑無あり

ろありてくみ男みこうこと語つそこうさ
みくひまれうこぐよくうこと
こうこうよりやりまををろるる
ざりやろ法をくをるど世人ゆどろく
のみて玲泉院こ
うこぐ比ものてうこぐりるうめづくと比今
三と文延生のこ
文ゆ八ひこうこ
まるくこ八ひこうこ
いうこうこもこ人るこ法いこ八ものこ
ちん文こ
ひ世ものく語くこ面ぐこ
こうこぐこ
こうこ比ものこ
こうこ比ものこ

物江鶴屋の女郎腸く
女一こめを限るこりのよ
師法住の花
女れも

しづ西よ逆生れ文ぐ
腸ゆ比ものくくこ

世のこうこく
細世界の男ひ年巻のう
こよ法理とうこ方を
のうり

ひこうくこりまるれこ
義秋好と江鶴屋と
の二人よ法理とつけて
文とあをひがまにや
ゆこく孟女郎八人く
崇敬くしこ

あまりこうまで八相しこんとれころ
こぐこまるこしよりれくやこうこ比
くくしここいぐこみぐこく
女郎と比高ゆ比中をへぐこるぐりめり世
のつくこうてこるぐぬんのるこひ
みをすこりここりこころこよ
ここおいここ比ものこ人もころを
まりひぐこりれば陰のこりの下出
人ぐいこ角んぐこるくてひこく地語
これここのこここつけてこるここ
孟女郎とこくいこ人こ
こりこ方ぐこ中お弁こ
こりこ比ものこ意逆ものこ
こなぐこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

左大臣　細　氏族不分明也。
系図ニハ行河の左大臣
とあり　三行河の子
始て出家　細　非素
左のそうてなり　細　非素
よ相ハ人けうとう義
の名乃ちそうひとち
そひのうぐとぐうもち
あうんとぐ中ふ盃目義

[illegible]
細　善人かねうし　三位の中将
し　ぜ中ねつ　ひそめくしの縁ぞ。
くも　つくつくとひつて　左大臣乃ぜ
むをめとえてんれどゆさくんりてめぞ。
ぜのうそてなり　ひそちそびのしまけう
ひめをこてぐさめもすちハいうよそてハや
うのあるよ　ようるもうん　ぐもとぐ　ぐやもとぐ
ちうあ
ちうさうめむ　むつうこよ　ぐうちよ　ぜ治
ひよちうぐうん　盃　ぐのぐ　ちよちうこれて　帥世上
當然のあうぐ　ぐうのえ　ちひしやうふハあ　細肉
らめはあり　ちうう　海を　はあ　ぐ　ぐ肉
の　ぐ　ぐ
の　えハ　ぐ　ぐいまあ　ぐうう　ちやと
ぐよりてあ　ぐてよもあ　ぐあ　ぐ

[illegible]
細　汀海　左大納言
のうち九条右丞相のこと
ひとり　ぐ奥あ　ぐ事也。
ぐ賢之集ニハ九条右丞
相を　左大納言とかけ
ぐ　執柄の次男なるゆ
左大臣　ぐ　ぐ　ぐれ　ぐ
ぐ　三　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ中将　細　善の中
納言のぐ　ぐ紅梅の事に
あ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みぞんいそぐ　とうのしゅうとうるべきさま
ふ　右兵衛督　右大弁みちくに　これ　源　泰俊
うるをうれつてとうり　伯耆とうるも
ゆうらぞ　ばばは中納言とうるぞうよ
そうひの程いうことうるれど　人よりの　官位を
とうげうるうり　宰相をとうるつきく

しく

伯耆とうるぞうしぞばは中納言　妙光は兄弟の中にてうるうり　佛
うひよりのせうく　小宮位のうきはうるねをいふくざうれど人よりをうつと欲うふ
年ようひ　細　年数しいたぐうるうれど母のはらをうぐ不良よりはべ
宰相はいとうく　細　夕雲の息宰相中納言うるうり　妙ようの方へ仕つきくもくひう
のうをとうるうれ　みて芳うぐのうをうねをひとうるぬ　ばば河内守　芳のぞよい　芳く
おおぶ勢の位息和冷泉院　ものうをうひくさやううて　里位しまふうぐを　ぬて宰相
中納言はよく　ものうをうくねんありてつきぐもうく　中納のゆりとうぐをうをうふとうつうを
ひのうをうぐしはの河ーうのぞてうるうしみもはとうをうみもとうふ
へうるをうをう　孟　ものうは別のうを　一郎　うをうれまをくうるよ　伯をぐ　出つきを　ぬは書
とひうるうり　作　ぬうり